

【大会日程】(5月11日) ※下記日程は都合により変更されることがあります。敬称略。

時間	大会進行予定	備考
10:30~	開会、会長基調講演 上田会長「戦争を肯定する政府は民主的か」 Opening Speech: Ueda Kuniyoshi “Is Government Affirming Wars Democratic?”	受付: 10:10~10:30 ※会費未納会員は会費をご納入ください。非会員の方は、参加費(資料代含む)1,000円をお支払いください。新入会も受け付けます。
10:40~	報告 南 隆太「英語圏におけるシェイクスピア作品のマンガ化現象について」(最近の世界の動向についての報告) Report: Minami Ryuta “Manga Adaptation of Shakespeare Plays”	
10:50~	パネルディスカッション「進化について」 Panel Discussion: “On Evolution” 司会 上田 邦義 Chair: Ueda Kuniyoshi パネリスト 伊藤 順子 (朗唱研究) Ito Junko 金井 治 (臨死体験研究) Kanai Osamu 菊地 善太 (『テンペスト』研究) Kikuchi Zenta 松添 寛之 (教育と平和研究) Matsuzoe Hiroyuki	
11:50~	昼食休憩/役員会 Lunch Time / Conference 役員会 (12:10~12:40 ※都合のつく役員はご出席ください)	
13:10	研究発表 (質疑応答を含めて一人20分以内) Presentation: 金井 治「夏目漱石と臨死体験『思い出す事など』から」 Kanai Osamu “NATSUME Souseki and Near-death Experience”	司会: 菊地善太 昼食: ※昼食は近くで済ませるか、お弁当等をご持参ください。会場近くにコンビニがあります。
13:30	斉藤 千絵「ありのままに語ること: 公民権運動の語りにみるラップ・ミュージックの起源」 Saito Chie “Telling It as It Is: The Origins of Rap Music in the Black Vernacular of the 1960s”	
13:50	川田 基生「ドストエフスキーの詩劇『大審問官』研究 —ポリフォニーの詩学 心がひらかれる時—」 Kawata Motoo “Poetics of Dostoevsky”	
14:10~	休憩 (10分) Break	
14:20~	宮西 ナオ子 「能における陰陽五行説についての一考察」 Miyanishi Naoko “A Study of the Ying Yang and Five Elements Theory in Noh Plays”	

14:40～	梅谷 陽二「能楽との融合芸術はバロック的な脱出か？」 Umetani Yoji “Fusion of Noh Play with Different Arts Leads up to Baroque Escapade?”
15:00～	休憩 (10分) Break
15:10～	特別講演 足立 禮子 演題「美しく生きる—『能・リア王』を初演して—」 Special Lecture: Adachi Reiko “To live beautifully: Performing Cordelia”
16:40～	総評 上田会長 General Comment: Ueda Kuniyoshi
16:50～	事務連絡 菊地事務局長 Information
17:10～	懇親会 (2時間位) : 会費 3,000 円 会場「素材屋」(市ヶ谷) ◆要連絡 TEL: 090-7270-3940 (松添まで) Party: At Sozaiya

【懇親会場へのアクセス】



- ・会場
「素材屋」市ヶ谷店 **Sozaiya**
TEL : 03-5216-2087
東京都千代田区五番町 6-1 AK ビルディング 1F
- ・交通
JR市ヶ谷駅 徒歩 1分
有楽町線市ヶ谷駅 徒歩 1分
都営新宿線市ヶ谷駅 徒歩 1分
- ・地図
※場所は左記地図中央、四角枠で囲まれたところ
<http://r.gnavi.co.jp/g084627/map1.htm>
より引用



発行： 国際融合文化学会 (ISHCC) 2008
 文責： 実行委員長 松添寛之 (2003c20@gssc.nihon-u.ac.jp)
 学会会長： 上田邦義 (ueda@gssc.nihon-u.ac.jp)
 Homepage: <http://atlantic.gssc.nihon-u.ac.jp/~ISHCC/>

【会長基調講演 演題、講演要旨】

氏名	演題
	講演要旨等
上田 邦義 Ueda Kuniyoshi	「戦争を肯定する政府は民主的か」 “Is Government Affirming Wars Democratic?” 人間は自分の生命・人権と同様に他人の生命・人権をも尊重すべきものとするならば、国民（市民）同士が相手の生命・人権を奪い合う戦争を肯定する政府は、果たして民主的と言えるであろうか。
南 隆太 Minami Ryuta	「英語圏におけるシェイクスピア作品のマンガ化現象について」（最近の世界の動向についての報告）“Manga Adaption of Shakespeare Plays” (Report)

【パネル・ディスカッション】

氏名	演題
	講演要旨等
司会： 上田 邦義 Ueda Kuniyoshi	「進化について」 “On Evolution”
パネリスト： 伊藤 順子 Ito Junko 朗唱研究	<p>「進化」という言葉がいろいろな意味で使われている。</p> <p>19世紀イギリスの生物学者ダーウィン（Charles R. Darwin, 1809-82）が世紀半ばに首唱した「生物進化論」（主著『種の起源』1859）は、生物学のみならず社会科学や一般思想界に画期的な影響を与え、今日もそれがいわば常識になっている。その後、突然変異説によって修正されたとは言え、「進化」といえばこの意味に解釈するのが主流であろう。しかしその唯物思想は宗教界から激しく非難されたものでもあった。そして今日なお批判され、学校教育において問題になることも事実である。</p> <p>また一方、20世紀末から、「進化」を精神的な意味にとらえる人々も多くなった。全人類の共存のためには人間の意識変革が必要であり、「精神進化」が求められる、などである。</p> <p>生物進化、人間進化、文化の進化、など今日さまざまに用いられる「進化」という言葉を、パネリストたちの発言を元に改めて考えてみたいという趣旨である。（上田）</p>
金井 治 Kanai Osamu 臨死体験研究	
菊地 善太 Kikuchi Zenta 『テンペスト』研究	
松添 寛之 Matsuzoe Hiroyuki 教育と平和研究	

【特別講演・講演題目】 Special Lecture

演題： 「美しく生きる—『能・リア王』を初演して—
Title：“To live beautifully: Performing Cordelia”

講師： 足立 禮子 (ADACHI Reiko)
観世流能楽師・日本能楽会会員 (重要無形文化財総合指定)

【講演要旨】

私にとっての「秘すれば花」(世阿弥)は、たとえて言えば、外出のときです。コートを着て出かけるのが好きです。表面を覆っておいて、本当に大切なものはめったやたらに人には見せないのです。自分の芯の強さ、本当の美しさ、自分の核となる部分は、秘して強く磨いておくという考え方が好きです。全部をあからさまに出さないということ。すなわち奥ゆかしさです。そして秘めている人は、強いと思います。

世阿弥は「花」という言葉をよく使います。「花も実もある」もそうですが、「花と、面白さと、めづらしさと、これ三つは同じ心なり」ともいっています。

私の好きな言葉で、「花は残るべし」「花は散らで残りしなり」があります。老骨になっても花は失せないという意味です。生きている限り、ぜひそうありたいと思います。花とは、能の真髄ではないでしょうか。何回も能を舞っていると、自然に花のごとくに大きく芸が花開いてきます。命つきるまで花は咲きつづけるのです。

——『NOと言わない生き方—自分の人生への責任と愛』より

【講師略歴】

略歴：

- 1925年 小樽市に生まれる。
- 1948年 女流能草分け津村紀三子入門。
のち観世喜之家所属。
- 1964年 『道成寺』披き。七五年秘曲『卒都婆小町』披き。
以後、『鸚鵡小町』『恋重荷』『鷺』その他。
- 2004年 日本能楽会会員 (重要無形文化財総合指定認定) となる。
観世流能楽師。禮能会主宰

著書 写真集『華』(ビイング・ネット・プレス)
『NOと言わない生き方』(三五館)



発行： 国際融合文化学会 (ISHCC) 2008
文責： 実行委員長 松添寛之 (2003c20@gssc.nihon-u.ac.jp)
学会会長： 上田邦義 (ueda@gssc.nihon-u.ac.jp)
Homepage： <http://atlantic.gssc.nihon-u.ac.jp/~ISHCC/>

【研究発表 題目、発表要旨】

氏名	タイトル 発表要旨等
金井 治 Kanai Osamu	<p>「夏目漱石と臨死体験『思い出す事など』から」 “NATSUME Souseki and Near-death Experience”</p> <p>夏目漱石の臨死体験を論考する。彼は 43 歳のとき「修善寺大患」と呼ばれている大病を患い生死の境をさまよった。その時の状況は『思い出す事など』で語られている。その内容は、今日でいう「臨死体験」に該当すると思われる。漱石は、大病後にはエゴイズムの問題を追求する小説を書くようになる。そして、「則天去私」の境地に達して、文豪の生き方を全うした。そこには、臨死体験の影響を受けていることが感じられる。</p>
斉藤 千絵 Saito Chie	<p>「ありのままに語ること：公民権運動の語りにみるラップ・ミュージックの起源」 “Telling It as It Is : The Origins of Rap Music in the Black Vernacular of the 1960s”</p> <p>ラップ・ミュージックにみられる特徴の一つ「語り」を焦点とした考察である。その語りの本質は、真実をありのままに語り、主張することにある。アフリカ系アメリカ人が真実をありのままに語り始めた公民権運動時の語りと、ラップ・ミュージックの語りとの関連を検証し、ラップ・ミュージックの起源は公民権運動時の語りであることを論証した。</p>
川田 基生 Kawata Motoo	<p>「ドストエフスキーの詩劇『大審問官』研究 -ポリフォニーの詩学 心がひらかれる時-」 “Poetics of Dostoevsky”</p> <p>ドストエフスキーをどう楽しむか。夏目漱石は『ハムレット』を詩として楽しむべきだとしているが、『カラマーゾフの兄弟』は叙事詩である。ドミートリー・カラマーゾフの心はオセロに似て詩に充ちている。そのラストシーンは『ハムレット』のラストシーンと同質であり、ギリシア悲劇様式のコーラスの響きがある。</p> <p>なぜ『カラマーゾフの兄弟』を読むとほっとするのか。晩年のドストエフスキーのキリスト教的な同胞愛が黙示されているからである。それはロシア民族の魂のあり方であり、その良さは他民族への共振性、共鳴性にあるという。報告では彼の死の半年前の「プーシュキン演説」における人類の世界的融合宣言までふれてみたい。これは融合文化論から読み解くドストエフスキー論である。</p>

【研究発表 題目、発表要旨】(続き)

氏名	タイトル 発表要旨等
宮西 ナオ子 Miyanishi Naoko	<p>「能における陰陽五行説についての一考察」 “A Study of the Ying Yang and Five Elements Theory in Noh Plays”</p> <p>室町時代に能聖観阿弥・世阿弥が大成した日本の伝統芸能の「能」には、陰陽五行説の思想が見られる。そもそも世阿弥は『風姿花伝』の中で、「一切は、陰陽の和するところの境を成就とは知るべし」と書いている。 本研究では陰陽五行説が能の中でどのように取り入れられているかを考察する。</p>
梅谷 陽二 Umetani Yoji	<p>「能楽との融合芸術はバロック的な脱出か？」 “Fusion of Noh Play with Different Arts Leads up to Baroque Escapade?”</p> <p>能楽に融合化を試みる舞台が数多く見られるようになった。その中のいくつかを観劇したので、筆者なりの印象と見解を述べてみたい。管見ながら、これらの新しい試みの軌跡は、現状からのバロック的な脱出を指向しているのではないかと愚考している。いくつかの例示を行ないたい。</p>